

2024年業務実績報告書

提出日 2025年 2月 8日

1. 職名・氏名 教授・早川 貴

2. 学位 修士（商学）、専門分野 商業学、授与機関 慶應義塾大学、授与年 1999年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅰ（2単位、2年生）
② 内容・ねらい 多様な経営環境の下で企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる経営意思決定と経営環境分析のための概念的フレームワークを総覧的に習得させることを目的とし、特に「競争戦略」とよばれるカテゴリの主要な分析・意思決定フレームワークを個々に取り上げて解説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 標準的な入門的経営学講義を履修済の学生を対象に想定し、身近な商品・企業による概念的フレームワークの応用事例の紹介と、当該フレームワークの解説を組合せて1回の講義を構成するよう努めた。内容上の工夫として、経営戦略論の持つ学際的な趣をそのままに、部長級以下で必要とされるフレームワークを中心にコースを構成した。講義はPCプレゼンテーション素材とネット上の資源を組み合わせて行い、單元ごとにクイズを行って理解度を測りつつ解説の密度を調整した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経営戦略論Ⅱ（2単位、2年生）
② 内容・ねらい 「経営戦略論Ⅰ」と同様、企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる経営意思決定と経営環境分析のための概念的フレームワークの習得を目的とする授業だが、「経営戦略論Ⅱ」では、特にフレームワークが依拠する経済学的基礎に遡り、フレームワークに内在する論理構造を詳細に理解させることをねらいとする内容にした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「経営戦略論Ⅰ」を習得済の学生を想定し、フレームワークの簡潔な復習から始めて、その経済学的な構造を解説し、個々のフレームワークの持つ限界と誤用・濫用の抑止に重心を置いて講義した。内容上の工夫として、目下のネットワーク経済体制下での起業家・企業家育成に資すると思われる Make or Buy のフレームワークに特に焦点を当てた。講義はPCプレゼンテーション素材とネット上の資源を組み合わせて行い、單元ごとにクイズを行って理解度を測りつつ講義の密度を調整した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書購読（2単位、2年生）
② 内容・ねらい 授業のねらいは、英語力の涵養よりも、英文のビジネスニュースを読むことに対する抵抗感を無くし、むしろ積極的に接触しようとするような態度・関心を涵養すること、ならびに、企業実務で英語を使用するような場面で“ビジネス教養”的な水準で求められる国際商務の知識と語彙力を増すことに置いた。内容の基本は、折々の英文ビジネスニュースをシェアして読み進めることに置き、トピックに関する討論を交えて専門的な語彙と知見を広げた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 当初はテキストと記事に均等に重みを置き討論を補助的に用いて授業を進めたが、学生の関心が折々の記事に対して圧倒的に勝っていたことから、後半は記事と討論に重心を置いた。過負荷となることを避ける目的から討論は日本語で行わせ、「英文ニュースに積極的に接する態度・関心の涵養」を重視する目的から討論で用いる論拠・証拠を全て英文記事に拠らせた。

[テキストを入力]

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（4 単位、1 年生）
② 内容・ねらい 「科学とは何か？」について無頓着な学生を想定し、科学哲学・科学論の主要な立場に関する理解を促し、その知見を前提として自覚的に自らの学徒としての立場を選び取れるようになることを目的として、講義と討論による授業を進めた。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 所属学部が多様であることから、社会科学と自然科学に共通する認識論的問題を実感できるような個人課題を端緒として経験主義、反証主義、相対主義の要点と異同の理解を促し、個々人の認識の在り方の異動や個々の専門領域における研究主題の特性を、討論を通じて意識できるように促した。
(2)その他の教育活動
1. 福井県経営改革課「アントレプレナーシップ教育」講演会の受け入れ 2. 「ふくい企業価値共創ラボ」における社会人向け講義

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書
② 論文（査読あり） * 1. “Exploring the components of “Kando” and the factors evoking it during motorcycle riding”, Yukako Wada, Yoshifumi Bizen, Tadao Isaka, <u>Takashi Hayakawa</u> , <i>Transportation Research Interdisciplinary Perspectives</i> 25: 101104, 2024 年 5 月。
③ 論文（査読なし）
④ 学会報告等 1. 「事例報告」,地域公共政策学会, 2025 年 3 月 29 日, 単独.
⑤ その他の公表実績：
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

①-2 委員就任（県） 福井県地域医療課、公募型プロポーザル選定委員会、審査委員（2024 年 6 月 11 日）

6. 大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
学部オープンキャンパス委員会
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス（永平寺キャンパス）、入試説明会
(4)その他、自発的活動など